

◎全日、栃木県で全国不動産会議を開催

全日本不動産協会・不動産保証協会（中村裕昌理事長）は19日、宇都宮市のJR宇都宮駅東口にあるライトキューブ宇都宮で、第59回全国不動産会議栃木県大会を開催した。住宅・まちづくりの諸問題に対する調査・研究を深め、会員相互が交流する場として1967年から会議を実施。「次なる未来へ飛躍する下野の国」をテーマに、記念講演や視察研修などを行った。会員ら約1200名が参加した。

中村理事長は、「宇都宮市のLRT沿線は、10年間で人口が7%増加し、地価の大幅な上昇地点もある。更なる地方創生が見込まれ、日本を代表するスマートシティとなる可能性がある」と挨拶した。記念講演では、佐藤栄一・宇都宮市長が「事業者・住民が活動できるように課題を抽出して、持続可能なまちづくりに取り組む」と話した。物価高騰に対する約27・8億円の経済対策や、日光市以外の宇都宮市や大谷地域での観光振興に加え、定住人口増加へ子育て・高齢者・移住の支援、宇都宮駅の整備を始め拠点づくりなどを紹介した。次回は24年11月21日に佐賀県で開催する。